

会 議 録

会議の名称	第4回 杵築市行政改革推進委員会
開催日時	平成28年10月28日（金曜日） 午後2時00分から午後4時15分
開催場所	杵築市役所本庁舎 2階 第1会議室
議 題	別紙資料のとおり
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
議事 （1）事業評価の追加資料について （2）事業評価報告書について （3）アクションプランの進捗状況について （4）その他	
審 議 内 容	
（総務課長あいさつ） （欠席者報告） 2名が仕事の都合により欠席。 （委員長あいさつ） （62番の栽培漁業促進事業追加資料説明） ○委員長：杵築は、65.1%もあるのか。群を抜いて高い。 ○総務課係員：これまで報告された中でも2番目に高い放流効果であったという事なので、放流効果は認められる。 ○委員長：干潟だからだろう。	

(64番 守江湾干潟再生事業追加資料説明)

○委員：この表は何か。

○総務課係員：これは県内の子育て支援施策をしているかどうかの一覧表。

○委員長：杵築はそういう意味では、かなりやっているという事か。大分市がやっていない事もやっているのか。さすが福祉の専門家。これ時間はどれくらいか。

○総務課係員：放課後なので授業が終わった後から6時まで。土曜日もやっている。

○委員長：土曜日もか。保護者が帰ってくるまでだから。これは、非常に登録児童数が多い。

(96番の延長保育促進事業追加資料説明)

○委員長：保護者は相当助かるだろう。

○総務課係員：通常保育が6時までなので、それまでに帰って来られない方の為に、1時間～2時間延長保育を行っている。

○委員：1日10名程もいる。すごい。多い。

(97番 地域子育て支援センター事業追加資料説明)

(103番 特定教育・保育施設利用者負担金単独補助事業追加資料説明)

(109番 児童生徒学習状況把握調査事業追加資料説明)

○委員長：これ必要性があるかどうか全国やっているのか。市独自にやってもあまり意味がないのでは。

○総務課係員：全国、県市のそれぞれの調査時期、対象学年、教科を記載している。市独自で調査をする目的としては、4月に調査を実施して同じ年度の1月に更に調査を実施することにより、その年度の学力の定着度合いを確認する。また、1月に実施することにより定着度合いが分かるため、その結果をふまえ、教師が授業の改善を図る事ができる。また全国、県と違う学年の調査をすることによ

り、調査対象以外の学年も学力の定着度合いを確認し、学力向上を目指すことが出来る。ということで市独自でこれだけの学年をしている。

○委員長：まあこれは、内容を見直しで。やることは分かるが、そこまでやる必要があるかどうか。必要性に疑問。

○委員：これ、全国と県とは学年が違うのか。

○総務課係員：はい。学年と時期が違う。

○委員長：学年が違うからやりたい気持ちは分かるが。国は3、6しかやっていない。県が2、5。その間をやっているのか。

○委員：これは、そして研究機関みたいな所に委託して、結果を分析してもらうのか。

○総務課係員：はい。委託して問題も作ってもらい、採点や分析なども委託して、更に学校ごとに教師達が分析する。

○委員：これは、何年やっているのか。もう長いのか。最近やりだしたなら効果をみて。随分前からやっているのなら、あまり効果がないのでは。

○総務課係員：平成19年度から。

○委員：毎年やらなくていいのでは。見直しがいい気がする。効果があるなら、これをやったおかげで平成19年度から順位がどんどん上がっていったら価値があるが、あまりそこが。

○委員長：では内容見直しで。

（内容見直し）

（125 番過疎バス補助金事業追加資料説明）

○委員長：1. 6人とか、3. 1人とか、2. 5人とか。そうなってくると、バスでいいのかって話だ。これは、内容見直しにするか。継続というよりは、極端に少ない所もあるので見直しにした方が良くと思う。あるに越したことはないが、費用対効果を少し考えてもらわないと。

○委員長：それと保留になった分をどうするか。先程の栽培漁業と守江湾の干潟。ある程度結果が見られているので、継続でよいか。

（継続）

○委員長：では、継続。１２５番については、上と同じように内容見直し。要は費用対効果。利便性は分かるが、あまりに利用者が少ないと。以上でよいか。

○総務課係員：はい。

（内容見直し）

○委員長：それでは続いて事業評価報告書について。お手元に報告書の案ができています。皆様に意見を頂くということで、いつまでか。

○総務課係長：来週末までに頂ければ。

○委員長：では、事業報告書については、６日中に出して頂ければ。私が見て思ったのは、事業評価報告書のはじめにのところに、２７年の決算状況を見て、若干良くなっているが好ましいとは言えない。２８年度は、減額が予想されると書いているが、今後のは前に一文入れては。長期財政収支見込みを見ると、今後は非常に厳しい状況が予想される為、と入れてはどうか。長期の見通しはこれの中に入っていない。で、あの長期見通しは、どこまで説明したのか。議会には説明したか。

○総務課係長：した。

○委員長：ではよい。それを一言入れておいた方がいいのではないか。それと後は、３ページの全体概要は、個別を見て行くと、イエスカノーカ位しかないの、継続、継続で出しているが、やはり今後の厳しい状況をみた場合に、個別ではイエスノーしか言いようがないが、イエスがたくさん集まった時に、全体がイエスカといったらそうではない。だから全体的にシーリングをかける必要もあるのではないかと、書いてくれている。結構書いてくれているので、そ

こを注意して見てほしい。個別案件審査の時に、良い悪いを言った場合に、なかなか悪いと言えない状況があって、それを全部集めたら総額的にはちょっと疑問が。だから全体的に5%カットとか10%カットとか、そういう手法をとらざるを得なくなるのでそんな事を書いてくれって言ったら書いてくれているので、書きっぷりを見て頂き、4日金曜日中にご意見をいただく。意見提出書は、FAXかメールで。

○総務課係長：気になるところがあれば全体的に。

○委員長：では今日は、アクションプランの進捗状況という事になる。これ毎年見てきているので、進捗状況で変わった所、それから新規の分、ここが中心だ。

○総務課係長：はい。そういう事で、委員いいか。

○委員：はい。

○委員長：1件1件見ていってもいいが状況をみながら。

○総務課係長：はい。事前にお配りしているので、大事なところだけ読みながら説明して行きたいと思う。まず前回お配りした個別表の1ページ、こちらは本庁支所方式への移行だが、こちらは平成23年度に検討中止なので飛ばす。2ページ。組織機構の見直しという事で、平成27年度の年度目標は現状を把握して、継続的に見直しを行うという目標に対し、進捗状況は各課にヒアリングを行って昨年は、医療政策課の新設、各課の事務事業の分担の見直しを行ったということで、進捗評価はA。

○委員長：ヒアリングを行って、その中で必要と思われる医療政策を新設して各課の事務分掌の見直しを行い、それについては予定どおり行ったと。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：庁内システムの見直し。年度目標が基幹系業務システムの検討・構築、内部情報系システムの検討・構築、土木積算シ

システムということで目標を掲げ、スケジュールに対する具体的な取り組み内容だが、内部情報システムについては引き続き関係各課で検討を実施の上、各法改正の改修とコスト削減の観点から平成28年度は再リースを決定している。基幹系業務システムも番号法による改修のため平成28年度の更新については再検討した。土木積算システムも平成27年12月から再リースを実施しており、仮想基盤の構築を実施した。これも進捗評価は予定通り実施しているという事で、A。

○委員長：これ全ての項目について、本当は現況があって、課題があって、最終到達点をどこに置いているかだろう。庁内システムのどこまでのものをどう考えるか、その辺がちょっと分からない。これだけ見ると自画自賛になるけど、全体としてこう言う形にもって行きたい、それに対してどの程度進捗率は何%達しているか、そういうのがないとなかなか分かりづらい。あるべき姿100%とした時に、年度推進で今何%程度まで各課が達成しているのか、そういうのがないと今の説明になると皆Aになってしまいそう。そういう検討は難しいのだろうか。

○総務課長：大体、こういう電算システムは5年周期で更新していくが、今回の場合、基幹系というのは住民基本台帳を基本とした各行政機能であって、内部情報システムは各職員間の情報ツール。その5年間のシステムが、次期どのように更新するかというのを考えるが、今回の場合は、まだ使えるという事でリースを延ばしたが、到達点というのが5年サイクルなので難しい。その場になってどれがベストなのかというのがなかなか難しい。

○委員長：スケジュールの年度目標は入っている。数値目標と効果。数値がだせるものならいいが。

○総務課長：ソフト面の事なので、契約金額とか見積とかいうのは目標にならないので。

○委員長：これ平成２８年度が載っていると言う事は、４か年、アクションプランは４か年か。

○総務課係長：はい。

○総務課長：とりあえず今回は、平成２８年度まで。

○委員長：分かった。中々難しいところがあるが。考え方としては４か年で計画した中の何割かで達成している。もしくは単年度で考えた事について。なんかその辺が分かり易くなると、もっと見える化できる。

○総務課係長：はい。検討する。

○委員長：全体事業量の何％達していると。今回は平成２８年度で１００％その辺なにかあればいいかなと。平成２８年度は達したか達してないか平成２９年度以降は、例えば初年度あたりは全体の計画した中の何％くらい達したのか、そんなものを検討できないか。

○総務課長：目標の設定も、本来だったら平成２７年で構築するが、まだ使えるから平成２８年度に延ばした。それが事業達成になるのかという捉え方も、辛抱したから達成できたというのか、いや替えてないから達成できてないというのかが難しい。そこら辺も迷った。

○委員長：難しい。経費の削減はしたが、システムの効率化は達していない。効率化の中身が、事業効率を図れば経費がかかる。でも経費は落として効率化は前のまま。その２つを書けばいいのかな。

○総務課長：行革の立場としたら、ある程度、行革には沿って使える物は使う。

○委員長：行革の立場からすると、経費が減ってそのままやってくれるならいい。ただ、住民サービスに対して影響が出てないのならいい。これは難しい。いずれにしても、これは平成２８年だからもう最終年度だから、次作るときにその辺の工夫がいる。だんだん難

しくなっていく。

○総務課係長：なかなか数値目標が、私たちもヒアリングしながらなるべく入れるようにとは言っているが、入れられない項目もあって、難しい所がある。数値が入ってないものが続くが、総合窓口サービスの推進。昨年度も進捗評価を中止という事にしたので、今年は評価をしていない。項目には載せたままだが、平成26年度に今の庁舎では総合窓口を設けない決定をした。

○委員：それだったらもう、最初のものも評価なしではないか。

○総務課係長：評価なしに変更する。

○委員：その方が、分かり易い気がする。

（異議なし）

○総務課係長：事務マニュアルの整備。取り組み内容、全ての係において、平成26年度にマニュアルの整備をしたが、またその内容を全部見直し、提出させている。ということで、評価はA、予定通り実施しているというコメントを入れている。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：入札制度の改革。取り組み内容、県下の状況をもとに、入札契約制度を検討し、工事入札金額内訳書添付の施行や、施行体制台帳の添付義務づけなど、制度等の一部改正を行ったと積算資料も添付させるような格好にしたという事だが、一般競争入札対象金額の各市町村の状況がまちまちであり、社会情勢等を考慮して現状維持となったという事で、一部実施。

○委員：効果が期待できるからこういうものは急いでやる方がいいと思う。

○委員長：他市町村の状況を見ながらでないと、杵築だけが先行するのは難しいという話ではないか。

○委員：他を無視してどんどんやると怒られるのか。

○委員長：横並びでなくなると、いろんな面で怖い面があるのか。

○総務課長：言われない話だが、市の金は市に落とすみたいなの。

○委員長：できるだけ地元には落としたいが、指名競争だとある程度地元でできると言う事だけど、今度指名競争にしてしまうと密室になるので最低入札価格が、どうもみんな99%ぐらいで落札するようになる。Bでよいか。

（異議なし）

○総務課係長：コンビニ収納の推進。コンビニ収納は可能な税等の周知に努めるとともに、その他取り扱い可能な使用料等について検討し、順次実施をしていく。数値目標を入れている。コンビニ利用率17.5%という目標を立てている。納付書送付時に、コンビニ収納のPRをしたという事で、コンビニの収納率17.54%と目標を少し上回っている。目標数値に達することが出来たという事だが、後期高齢者保険料の利用については、検討はしたが導入に至らなかったという事で、B。これはAでも良さそうな気はするが。

○委員長：コンビニ収納率は超えている。ただし、後期高齢者の保険料の利用については、導入にいたらなかった。

○総務課係長：はい。検討までは行った。

○委員長：当初の率を超えているのでAにしては。

（異議なし）

○委員長：意外と伸びないようだ。コンビニが便利なところはないのか。

○総務課長：一応口座振替も推進しているし、手で直接納める人がコンビニ納付になる。コンビニがない地区もある。

○総務課係長：図書館機能の充実。子ども読書推進計画策定という事で、図書館機能充実に向けた各種事業の実施、新館建設に向けた各種計画の実施、新館基本実施設計着手および完了、地域行政資料の収集という目標に対し、具体的な取り組み内容が、第一次子ども読書推進計画を策定した。工作教室等の図書館授業を実施した。基

本実施設計が完了した。雑誌スポンサー事業を実施した。地域行政資料の収集を開始した。これも予定通り実施したという事で、A。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○総務課係長：定員適正化の推進、定員適正化計画に基づいた取り組みを実施する。スケジュールに対する取り組み内容だが、各課にヒアリング等を行い適正な人員配置を実施したという事で、A。

○委員長：定員適正化というのは、全体で。

○総務課長：昔は減らす一方だったが、今は減らしすぎ、一方では事業が増えているので現状維持という計画だ。

○委員長：現状維持。で事業は増える一方。

○総務課長：委託や窓口業務の委託等、民間委託等をやれば、人数を減らすという計画にしている。ただそこまでにはまだ至っていない。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○総務課係長：嘱託員、臨時職員の適性配置。平成27年度の目標、民間委託や指定管理者制度の活用による臨時嘱託職員の適正配置を行う。取り組み内容、全課ヒアリングにより臨時・嘱託員の適正配置を行った。住宅供給公社への業務委託等や文化施設の指定管理により、職員数を減らす事が出来たという事で、これもA。

○委員長：平成25年4月1日の職員数の目標328人に対し327人まで落としたという事か。人口1万人当たりの職員数は、平均92.57人だが、杵築市は90.96人か。県内の類似団体の中では1位。

○総務課長：病院は入っていない。

○委員長：病院が入ると変わる。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：給与の適正化。取り組み内容、課長級の給料の2%カットを行ったという事で、評価はA。

○委員長：課長級の給料は、高いのか。

○総務課長：全体からしたら、100を越えている。

○委員：それは高いのか。

○総務課長：どちらかと言うと大分県は高い。

○委員：経験からしたら、あまり給料はカットしたら危ないのではないかという気がする。そもそもタイトルの適正化というのは正しいのか。適正でないけどカットしているというのなら。民間は今苦しいからカットする、そのかわり収益が上がったら元に戻すという事で、適正という言葉を使わない。適正というのは常に正しいのだから。一時的なカット、これはやっぱり今、委員長がおっしゃるとおり、適正、高いから落としているという理解でいいのか。

○委員長：ラスパイレス指数が高いと言う事は、国からも目を付けられるし、それなりに落とさないといけない。

○総務課長：ラスの比較の仕方に我々は疑問を持っている。その年代層の人数によって、国の人数と、杵築市の人数を比較するので、毎年毎年状況が変わってくる。大きくは変わらないが。そこら辺で一律比べられても。国はパイが大きい。

○委員長：国は、指定職以上は入っていない。高給のところは。確かにちょっと問題がある。

○委員：やる気をなくすよりは、お金はそのままでがんがん働いてください。の方がいいような気がする。

○総務課長：余談だが、今年度は平均1%カットしている。

○委員長：しかし人勧は上がっているだろう。

○委員：元に戻る予定もないわけか。

○総務課長：だから根本的な所を考えて行かないといけない。

○委員長：これからの厳しい財政状況を考えたら、

○委員：おしゃるとおり。人を減らすか、給料カットか。

○総務課係長：諸手当の総点検の実施。現状の制度の趣旨に合致しない手当については、逐次見直しを行う。具体的な取り組み内容、県内の他市の諸手当の状況の調査をしたという事で、これも予定どおり実施を行ったとしている。見直しは特にしていない。

○委員長：調査だけやったと。予定どおりだから。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：市政情報の積極的な公開、分かりやすい情報の提供。ホームページで動画配信、SNS、防災ラジオの有効活用。スケジュールに対する具体的な取り組み内容は27年12月から市の公式WEBサイトから動画配信を開始。SNSの配信開始、防災ラジオの有効活用パブリックコメントの実施ということで、こちらも予定どおり実施のA。

○委員長：予定どおり進んでいるという事で、よいか。

（異議なし）

○総務課係長：庁内における情報の共有。ICT推進グループ会議を3回開催、WebGIS調整グループ会議を3回開催し、情報提供を実施。IPKグループウェアは復命掲示板を追加、各課の情報を掲示し全職員への情報提供、共有をはかったという事で、これも予定通り実施し、A。

○委員長：よいか。もうこれは継続でやっているわけか。

○総務課係長：ICT推進グループというのが各課から1名ずつ出ている。改善点を会議して、改善出来るところは改善している。

○委員長：ちょっと分かりにくいがよいか。具体的な所は、今までのものに復命掲示板を追加した。各課の情報を掲示、全職員への情報提供・情報共有を図った。

○総務課係長：掲示板というのが、出張等に行った時にこういう研修に行ってきた、というのを皆で共有する。

○委員長：そういう項目が、ICT推進会議の中でやったらどうかという意見がでたということか。

○総務課長：特に災害の時には、どういう災害が起きたというのを全職員が見られるような共有フォルダーを作る等。

○委員長：サイボーズは入ってないのだろう。お金かかるから

○総務課係長：入ってない。

（異議なし）

○総務課係長：人事評価制度の導入。年度目標は、人事評価システムを導入する、職員研修を行うという目標に対し、人事評価システムを導入し実施に向けた研修を2回行った。これは今年度から実施している。平成27年度に導入という事で、A。

○委員：人事評価システムというのと、人事評価制度というのは、また違うのか。

○総務課係長：制度を実施するためのソフト、システム。人事評価制度というのは平成28年度から義務付けられたので、それに向けてペーパーレス化で、端末から評価出来るようなシステムを平成27年度から導入して、その研修会をやって平成28年度から。

○委員長：実際の稼働が平成28年度から。

（異議なし）

○総務課係長：人材育成の推進。人材基本計画の実施という目標に対し、人材育成基本方針に沿った研修計画の見直しを行った。研修勤務評定等を行ったという事で、A。

○委員長：これまでは、研修に行きたい人を手挙げ方式でやっていたが、そうではなくて、この年代の人はこれだけは受けてくださいという事で、強制的な分も。やり方を変えている。

○委員長：ある程度、システムを作っていないと。

○委員：これ対象は、一般の人か。管理職も含まれるのか。

○総務課長：全部含まれる。

（異議なし）

○総務課係長：職員提案制度の活用。まち・ひと・しごと総合戦略策定において、職員による事業提案を実施したという事で、提案の総数159件のうち27件を採用した。これも予定通り実施のA。

○委員長：去年がBだったのがAに上がったという事か。職員提案制度が動き出したと。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：評価機能の充実。年度目標は、事務事業評価の実施方法を再検討という事で、今年から事業評価しているが、平成27年度に様式を作ったり、去年の会議の中で検討したことを踏まえて予定どおり実施という事でA。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○総務課係長：市民満足度調査の実施。無作為抽出で2,000件実施。これは隔年実施だが、ここは数値目標を入れている。回答率800件の40%の回答率という目標を立てており、取り組み内容実施年につき無作為抽出2,000件にアンケートを行った。しかし回答数が676件の回答率が33.8%。目標未達成のため、B。

○委員長：やったけども回答が来なかったということか。

○総務課係長：一応2,000件ベースで見るとやっているが目標が800件という事だったので、Bをつけた。

○総務課係長：回答が少なかったという事は、PRが足りないというか、答えにくい内容だったのか。

○委員長：Bは一部実施になっている。

○総務課係長：目標に達しなかったという事で。

○委員長：そうか。取り組んでいるが、目標に達しなかったもの。厳しくしたようだ。

○委員：少し分からないのだが、これは市民満足度調査。件数の話よりも中身の方が問題。中身は件数が少なくても十分に満足度を把握出来る、そっちの方が大切な気がする。それは把握できるのか。

○総務課係長：分析はしているし、それを色々なところで、先程の情報共有ではないが、色々な施策には生かしている。

○委員長：公表はしたのか。

○総務課長：はい。

○総務課係長：ただ、やっぱり回答率が多い方がより多くの人のニーズを把握出来るというところはある。

○委員長：システムとしては、一つは調査が予定通り行われたかどうか、もう一つは、実際の中身がどうであったか、次回からは中身が出てくると良いかもしれない。市民の評価がAかBかCか、システムがA、B、Cで機能しているか、そして中身の評価が動いているか。

○総務課長：それと、最近結構市民アンケートが多い。部門ごとに。だから面倒くさがる傾向も若干あるのかと思った。実施年度は各課連携しながら、同じような形でした方がよいk。

○委員長：それが良い。どこもそうだ。大学も学生の満足度調査とか、よろずの中小企業相談満足度調査とか。どこもそれ重視している。だから市役所もこういう調査をやるシステムについての評価は達しなかったが、満足度が何%くらいだったか、それをAとみるかB、Cとみるか、その2つが次からあった方が良いかもしれない。

○総務課係長：これはBでよいか。

（異議なし）

○総務課係長：意見箱、メール等による意見聴取。行政に対する意見については、市民の声BOX、お問い合わせメール、電話で収集し、内容によって担当課から回答、また全庁連絡して情報共有を図っているという事で、A。27年度の問合せの件数は、文書で来た

ものは１０件、メールが７２件、電話９件、来庁は５件。

○委員長：メールが多い。これはデジタル化してないから、システムとしてか。

○総務課係長：はい。

○委員長：問い合わせ件数はいいが、対応がどうなっているかが問題。

○総務課係長：秘書広報課が担当課だが、自分のところで対応できるものは文書等で回答している。各課にまたがる内容であったら、各課に問合せをして取りまとめて、秘書課が。

○委員長：問い合わせ件数があって、処理済みと保留と結果を書いた方がいいのでは。全部処理済みなのか。

○総務課係長：一応何らかの処理はしている。そのままということはない。

○委員長：それではよいか。

（異議なし）

○総務課係長：自治基本条例の推進。自治基本条例に基づくまちづくりの推進、自治基本条例逐条解説の作成を目標にしており、取り組み内容は、自治基本条例運用推進委員会の中で、住民投票条例についての検討を行った。逐条解説の作成もしており、Ａ。

○委員長：最終的には、制定、施行まで行くのか。

○総務課係長：行った。今年の６月議会に提案して１０月から住民投票条例を施行している。

○総務課係長：一昨年と去年で９回検討している。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○総務課係長：協働のまちづくりの指針の策定。杵築市総合計画の見直しと併せて、調査検討するための資料収集などを行うという目標で、他市の状況や杵築市総合計画の見直しのための資料収集を行

った。これは資料収集しか行っていないという事で、一部実施の B。これは今策定に向けて素案が出来ている状態。

○委員長：では平成 28 年度の分は、素案が出来ているのか。

○総務課係長：はい。今年度中には指針が出来あがると。

○委員長：ちょっと遅れ、去年は資料収集だけだったという事で B。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：住民自治協議会の推進と連携。協議会相互の全体協議会を開催するという年度目標。取り組み内容は、12月に協議会の会長会議を開催して、各協議会の取り組み内容の報告などを行った。13協議会の各地区に個別訪問して地域における課題の実態調査を行ったという事で、A。

（異議なし）

○総務課係長：環境保全の推進。環境保全審議会を1回以上開催する。新規 B D F 取り組み団体1団体以上、新規のアダプトプログラム取り組み団体1団体以上という事で、具体的な数値目標を入れていた。27年度の目標に対する実績は、審議会は1回開催。B D F は1団体あった。アダプトプログラムに取り組んでくれる団体が協議は続けていたようだが、結局1団体もなかったという事で、Aを入れているが、これはBかなと思う。取り組みはしたが、目標に届かなかったなので、これはBかなと思う。

○委員長：Bだ。

（異議なし）

○総務課係長：景観保全の推進。届出制度と審査の実施、景観審議会の運営、景観講習会の開催、景観計画の見直しという目標。取り組み内容は、届出審査実績が49件、景観審議会の開催が1回、景観講習会、これはまちづくり協議会と共催という事で行っており、Bとしているのは、景観計画の見直しについては景観的問題がない

ことから実施していないため。目標に景観計画の見直しというのを挙げているが、これは出来ていないという事でB。

○委員長：景観的問題がないということで実施しない。やる必要がないという風に考えたのか。

○総務課係長：景観計画自体はあるが、内容はそのままだったという事。

○委員長：問題が起こらなかったからしてないわけか。自分のところから主体的に動く事はないのか。何か問題が起こったら検討するという感じか。

○総務課係長：審議会を開催しているので、見直しについても検討はしていると思うが、その中で現状維持という結果になったのだと思う。

○委員長：検討したが、必要がなかったという事か。それだったらBじゃなくてAでもいい気がする。景観審議会を開催して、その中で必要がなかったというなら。景観計画の見直しについては景観的問題がないために、実施していない。問題がなかった。これAでいいのではないか。

○総務課係長：Aでよいか。

○委員：そもそも景観計画というのは何か。

○総務課係長：色々な景観のことをやって行くときに、基本になる計画。

○委員長：固有の空間、地物を有効に活用し先人から継承された良好な景観をこれまで以上に磨き上げていくことが必要であり、景観計画を策定することで建築・開発行為に対する一定の規制・誘導をはじめとした様々な取り組みを推進する。景観条例施行により景観計画に沿った景観保全を図ると書いている。

○委員：景観条例の改正を。

○総務課係長：条例改正は必要な時にいつでもやるが。

○委員：問題がないと、見直しもないから条例も変わらない。

○総務課係長：はい。

○委員長：何かきっかけがないと動かないのか。むしろ攻めの形でこの間、委員が言っていたように、攻めの形で守って行くという動きは。問題が起こる前にやるという事は出来ないのか。

○総務課係長：いや結構やっている。文化の方でもやっているし。景観というよりも文化財の、南台周辺は家を建てるのも改築するのも塀なんかもものすごく厳しいので。カーポートも作れない。

○委員：杵築市がいろんな大学の学生と、杵築市の景観をどうするかとかやっている。あれまさに景観保全の推進やっているわけだろう。そういうものと、これがリンクしていない。

○総務課係長：これは政策推進課がやっているので、都市計画が担当だが、たぶんそっちのやつは文化の方が担当してやっているのだからちょっと視点が違うのかなと。

○委員：何となくこれは待ちの姿勢だ。

○委員長：問題が起こらないと動かないという性格のものなのかなという感じ。景観審議会は何かやろうとするから審議会でOKを出す。それがかかってこなければ、景観計画の変更はないという事になる。なんかこう、予定した物をやってないからB、必要がなかったならAでもかまわないけれども、姿勢の問題で、景観的問題がなかったから景観計画の見直しをしていないというのは、何か引っかかる。

○委員：あるべき論があって、そこを達成するために攻めていくんだ計画の大きな根底にあるとすれば、本来なら景観保全という事で、杵築としてはここを攻めて行きましょうだったら拍手だなあと。

○委員長：調べてきてほしい。景観計画というのは、どういう時に行われるのか。それによって、やってないからBっていうよりは、

やる必要がないのならAでも構わないが、やる必要がないのが良いのか悪いのかを議論している。問題が起こらなくても、やる必要はあるのではないかという気もする。もっと良い景観を保持しようと思えば。その辺がちょっと分からない。

○総務課長：街のゾーンとか里のゾーンとか分かれて色々な制限を加えているので、そのゾーンの変更や、例えば良い眺めを楽しむ場を作るとかいうのも、一応景観計画にあるので、じゃあどの場所を良い眺めの所にするか、そこら辺を随時このままで良いのか、やっぱりこの部分を入れたほうが良いのではとか検討すべき事をしていないという事。

○委員長：そうだろう。より優れた景観をもっと積極的に維持しましょうというのは、問題が発生しなくても、もっと自分達の中で考えたらどうだろうか。だから形としては問題なかった、やっていないというのならAでいいが、やる必要がなのはそれでいいのかなと疑問になる。その所を一回調べて頂いて。

○総務課長：常日頃、現場を見て、改善すべきところは改善して。

○委員長：常時やっぱり良い状況に日頃から努力しておく事がいいのではないかなと、そういう意味でも委員が発言した。

○総務課係長：調べておく。市民活動に対する支援機能の充実。地域で活動している団体から提案を受けて市が支援を行うという事で、数値目標11団体への活動支援という目標を入れている。これに対し、提案型まちづくり事業を募集した結果、史談会などから申請があって、審査会で審査を経て、各団体へ支援を行ったという事だが、11団体に対して5団体への162万8,000円を補助したという事なので、目標11に対して実績5なのでこちらもB。

○委員長：数値から行くと、11団体にやりたかったが5団体になったと。

○総務課係長：はい。やっているのはやったが、申請が少なかった

という事だろうが。

○委員長：申請が少なかったという事は啓蒙普及活動が少なかったという事。そう考えると。平成27年度11に対して、平成26年度は。

○総務課係長：平成26年度は、数値目標を入れてなかったが、実績は10団体。

○委員長：どう考えるかだ。平成26年度は10団体で、今回は5団体に減っている。おまけに、半額になっている。やっぱりBがいか。数値上げているから。

○総務課係長：広報が足りなかったようで。

○委員長：請が少ないというのは、周知が足りなかったのかもしれない。

（異議なし）

○総務課係長：パブリックコメントの推進。パブリックコメント実施の周知広報の方法の改善、SNSを活用して情報発信を確立するという目標。これに対して、市報、ホームページ、各庁舎、各地区公民館などに募集の書類を設置し、広く市民に周知し意見を募集したという事だが、SNSの開始時期が遅れたことにより、情報発信をする事が出来なかったという事で、評価はB。

○委員長：せっかくSNSを作ったが、平成28年の3月だったから情報発信が出来なかったという事か。これは仕方ない。

（異議なし）

○総務課係長：男女共同参画の推進。啓発活動に向けた研修や学習機会の充実を図る、市民の参加の機会を増やし、施策の実施に努める、市の各種審議会における女性の割合が40%になるように努める、という目標を立てている。取り組み内容は、男女共同のまちづくり講演会の開催、男女共同参画街頭啓発キャンペーンの実施、市内中学校3年生を対象に、デートDV講座を開催、担当者会議で改

選の際に審議会での女性委員の増加について周知努めたという事だが、27年度末における審議会の女性の割合は、25.2%と40%にまだ届いてないという事で、これも評価はB。

○委員長：40%はかなり多い。この委員会でも5人中1人、20%だ。2人にしないといけない。女性が半分、増やさないといけない。

（異議なし）

○総務課係長：それでは、アウトソーシングの推進、外部委託。建設課の市営住宅の管理運営を大分県住宅供給公社に委託したという事で、予定どおり実施。

○委員長：平成28年度は何をやるか分かっているのか。スケジュールに書いていないが。スケジュールどおりやっているかが分かりづらい。まあスケジュールどおりにいっているからAだろうが。

○総務課係長：そうだ。一応、道の駅の整備を今年度やっているが、それで、官民連携PFIの手法を導入を出来ないかと調査を昨年開始し、予定通り実施してA。検討を行ったという事でA評価にはしているが、準備して今年度国交省の先導的官民連携支援事業に補助金を貰ってやる事になり、今すでにしている。

○委員長：補助金は決まったのか。

○総務課係長：はい。今もうやっている。

○委員長：じゃあそれだったらA。

○総務課係長：去年は準備したということでA。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○委員長：道の駅は基本的にPFIというか、官民連携だろう。国交省事業は。市町村もしくは民間事業と。

○総務課係長：中国地方にすごいところがあるらしいので、そこを視察にも行った。

(異議なし)

○総務課係長：指定管理の推進。目標は指定管理者制度による管理運営の検討と方針。市営住宅等の管理代行及び指定管理の実施。30施設を指定管理者による管理運営を実施。大田高齢者デイサービスセンターや、エコランド、市営住宅の管理など大型案件についても更新したという事で、A。

○委員長：全てが外部という事じゃなくて、継続の分もあるが、30施設はやったという事で。

(異議なし)

○総務課係長：健全な財政運営。地方債発行額の抑制、計画的な基金積立という目標を設定しており、地方債残高は目標をクリアしたが、前年度から増額しており、基金も目標ほどは増加しなかったため実績としては低い評価という事で、B。254億に対して236億8,800万という事でB。

○委員長：地方債残高は減ったからいい。基金が75億の予定が65億。基金が目標に届いてないからB。

(異議なし)

○総務課係長：普通建設事業費に対する一般財源の抑制。取り組み内容、補助事業が減少し、単独事業が増加している傾向にあるため、地方債や基金、一般財源を投入しなければならない状況となり、普通建設事業費の決算額が32億8,000万円と前年度よりも7,000万円の増となったが、普通建設事業充当一般財源は10億2,000万円から6億5,000万円に減少して、3億7,000万円となった。これもB。

○委員長：充当一般財源が6.5億減少した。地方債残高は減少しているのだろう。

○総務課係長：はい。普建の事業費自体は増えているが、一般財源自体は減っている。起債等に対応しているということでB。

○委員長：はい、よいか。

（異議なし）

○総務課係長：学校給食センターの統合。これは、給食センターの建設予定地の決定、給食センターの基本設計、実施設計をするという事が目標だった。取り組み内容は、建設候補地や箇所数については協議を重ねており、候補地に関する課題について、関係機関と協議中。建設に係る市議会議員等からの要望事項があったため、説明を行っている。準備委員会については、設計業務の発注に合わせて、立ち上げ、機器の選定、配置、動線等を協議していく計画であるという事で、一応協議、調査検討はしているが、実施設計や予定地の決定までには至っていない、

○委員長：山香地区と杵築地区の調整があるから。はい、これはこれでよいか。

（異議なし）

○総務課係長：市立幼稚園の入園の傾向とニーズについて検討するという目標、取り組み内容は市内の民間保育園がこども園化する中で、市立幼稚園への入園者の現状の把握を行ったところ、平成28年度は105名となっている。平成29年度には80名程度まで減少して、杵築幼稚園以外の幼稚園は、10名以下となることが推測出来る結果となったという事で、元々の目標が傾向やニーズを把握という事で、A。

○委員長：市立幼稚園の統廃合はまだやってないのか。大分市内は相当問題になった。中心部の人口減で、統廃合。PTAが相当反対したけれどやった。中心部に子どもが減った。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：ケーブルテレビ事業の管理・運営方法の見直し。新たな管理運営体制の整備、設備更新に向けた取り組み。センター設備を含む伝送路設備の更新の方向性を決定するという目標。数値目

標のところに正規職員３名という目標が上がっている。それに対しての具体的な取り組みだが、技術職員１名を採用、育成にはかなりの時間を要するが順調に育成が行われている。運営見直し及び設備の更新の一貫で、インターネット業務を全面的に大分ケーブルテレコムに業務移管を行った。その他運営見直しにかかる協議を継続実施した。委託先職員の退職等があり、業務移行等が進まなかった、ケーブル料金の未納額も多額になり、滞納整理等のための再任用職員１名を採用したという事で、目標３名に対して、再任用の職員が１名入って４名だったので、目標に達していないという事でＢ。

○委員長：あり方は、もう決まっているのか。新たな管理運営体制。

○総務課長：決まっていない。

○委員長：決まってないだろう。それもある。そこが問題。そもそも、この辺で指定管理か何かに出す予定だったのが、残ってしまい逆に人数が増えた。これはちょっと大きな問題になってくるだろう。事業決算は赤字にはなっていないのか。どっちにしても早急に運営体制を確立しないと。どうするか決まっていないのだろう。民間に移管できないのか。

○総務課長：営業権は市が持っている。ただ指定管理みたいなのをするかというところ。

○委員長：ケーブル料金の未納額が多額になり、滞納整理のために、わざわざ人を雇ったのだろう。未納額が多額になるという事はもう配信停止だろう。

○総務課長：それで平成２７年度そういう職員を雇った。手続きが結構面倒くさいので、人を雇って配信停止をやった。

○委員長：運営体制を早く固めないと困るだろう。平成２８年度はケーブルテレビ事業の管理運営体制に対して、引き続き検討を行う。調査検討方針決定がまだ。平成２５、２６年に方針決定として

きたのに、平成２７年度で変わったようだ。いずれにしてもＢ。

（異議なし）

○総務課係長：補助金の見直し。これはこの委員会でやった。予定どおり実施という事で、平成２６年度まで９億円くらいあったのが、６億３，０００万くらいに削減出来た。

○委員長：よいか。

（異議なし）

○総務課係長：公営企業の経営健全化の水道事業の経営。第一次拡張事業に伴う水道料金の見直しの検討、未収金については給水停止を行いながら回収に努める、水道事業の広域化、民間活力の利用という目標で、数値の目標も入れている。未収金は３，６００万円、職員数８名、給与が４，７００万円という事で目標を入れた。取り組み内容は、未収金対策は給水停止を実施しながら水道料金の収納に努めた、水道事業の広域化・民間活力の利用に関する会議への参加という事で、数値目標に対する実績だが、未収金が３，６００万円に対し４，５５４万５，２７７円で目標に達していないという事で、Ｂ。

○委員長：未収金は増えたのか。去年は４，４９４万６，０００円だったのが、４，５５４万６，０００円、未収金が６０万くらい増えたようだ。６０万増えている。だんだん増えて行っているようだ。２５年は４，２００万だったのが、４，４００万、４，５００万と増えていっている。厳しい。やっぱりＢ。

○総務課係長：公営企業の健全育成化、今度は同じ水道事業だが、浄水場の建設事業。スケジュールのところで先行して配水池の設計を行うという事だったが、配水池の設計については計画通り完了している。浄水場基本計画の内容の見直しも行った。浄水場の建設については、当初計画の日程から大幅に遅れているという事で、これも評価はＢ。

(異議なし)

○総務課係長：公営企業会計の山香病院。年度目標だが、小児科の日曜診療の開始、土曜日には神経内科の専門外来を開設する等により増患を図る。健診センターでの送迎を開始して、健診者の増をはかるという目標だった。平成27年度は4月から土曜日に神経内科の専門外来を開始、23日診療して延べ135人、小児科の日曜診療は、38日診療して延べ654人の患者数となった。健診の送迎を開始し、前年度比152人の受診者増となったという事で、効果は入院外来収益で約2億2,000万円の増収となり、他部門についても利益率が改善しているという事でこれは予定どおり実施でA。

○委員長：よいか。

(異議なし)

○総務課係長：特別会計の見直し、国民健康保険税。保険税の収納率向上の為に、口座振替の推奨を図り、自主納付率の削減を図るとともに、滞納者に対しては、短期保険証の交付や滞納処分を行う。併せて医療費総額抑制のために、効果的な保険事業を行うことで、健全財政に資するという目標に対し、早期滞納処分を積極的に行った。インターネット公売、期間公売も積極的に行って、税収確保に努めた。催告書の送付の回数を年間4回実施し、納税意識の高揚に努めた、特定健診保健指導は、健診対象者への受診勧奨に努めた。特に通年未受診者に対し、受診勧奨を行った。また杵築市の健康課題を明確化したデータヘルス計画を活用しながら、本年度特定保健指導・要医療勧奨、重症化予防対象者に対し地区担当を決め、早期介入指導に努めた。これも数値の目標があり、一番下の特定保健指導実施率60%という目標に対して、実績では56,9%と目標を下回っているので、一部実施のB。

○はい、よいか。

(異議なし)

○総務課係長：特別会計の見直し、後期高齢者医療。保険料の収納率向上の為に、高額滞納者に対しては、短期保険証の交付を行い、少額滞納者に対しては、きめ細やかな電話等による徴収体制の実施を図ることで、後期高齢者医療の広域連合の健全財政に資するという事で、数値目標は98.3%、普通徴収収納率で、98.22%となっているので、B。

(異議なし)

○総務課係長：介護保険。介護保険第6期の計画に基づいて介護給付の抑制を図るという事で、要介護認定者数を1,954人という目標に、給付費34億6,709万円という目標に対して、これはどちらもクリア。認定者数が1,802人、介護給付費は34億4,437万円という事で、これは予定どおり実施のA。

○委員長：これは、介護保険も中に入っているから見にくい。

○総務課係長：これも、特別会計の見直しでしているので一括りになっている。

(異議なし)

○総務課係長：特別会計、地域包括支援センター事業。地域ケア会議等により、職員の資質向上に努めるとともに、担当課において、調査研究に必要な情報収集・分析を行うとという目標に対し、地域ケア会議を毎週開催し要支援1、2認定者へのプランの見直しを行った。また予防給付の訪問介護と通所介護が総合事業に移行することから、1年かけて適正な移行が実施できるように事業所と利用者の合意形成を行い、プランの見直しを実施した。介護保険の卒業者や閉じこもり予防が受け皿としてのまちかど交流サロンのサポートも実施しているという事で、A。

○委員長：よいか。

(異議なし)

○総務課係長：特別会計、簡易水道事業。年度目標は相原簡易水道の配水管の敷設工事、固定資産台帳の整備。数値目標だが、未収金が200万円という目標を立てている。相原簡易水道の配水管の敷設工事を行っている。固定資産台帳の整備は、22年度から26年度分を行っている。山浦簡易水道の配水管の敷設替工事を行った。未収金が255万7,110円という事で目標に達していないので、B。

○委員長：職員数や給与費も増えている。

（異議なし）

○総務課係長：特別会計、農業集落排水事業。戸別訪問による徴収と水洗化率向上の取り組みという事で、収入未済額を35万円以内にするという目標を立てている。取り組み内容だが、滞納者に対する個別訪問による徴収、未接続世帯を訪問して接続のお願いをする。後は市報による接続の推進という事をやってきたが、収入未済額が47万9,000円という事で、目標未達成ということでB。

（異議なし）

○総務課係長：特別会計、公共下水道事業。こちらも年度目標は戸別訪問による徴収と、水洗化率向上の取り組み。数値目標は、接続率を63パーセント以上にするという事と、収入未済額を500万円以内にするという事だったが、接続率が63.96%、こちらはクリアしているが、未収金の方が600万という事で、これもB。

（異議なし）

○総務課係長：特別会計、特定環境保全公共下水道事業。戸別訪問による徴収と水洗化率向上の取り組みだが、接続率が61%、未収金が70万、これはどちらも目標未達成でB。

（異議なし）

○総務課係長：市税の収納率向上。現年課税分の徴収強化、滞納処分の適切な適用による不良債権処理、滞納処分の強化、課税客体の

適切な把握、納税環境の整備を行うというのと、コンビニ収納口座振替の推進により収納率を上げるという目標。数値目標だが、現年度分が97.6%、過年度分が14.0%、合計86.5%という目標を掲げており、これはすべてクリアをしているのでA。

○総務課係長：口座振替の推進。市民税が21.5%、固定資産36.4%、軽自動車21.3%という目標だったが、達成していないという事で、B。

○委員長：これは前年、前々年の実績に比べてみても市県民税は落ちている。固定資産税も落ちている。軽自動車税も落ちている。

○総務課係長：だんだん亡くなる人等がいて、口座はお年寄りが多い。若い人は、コンビニの方に移行しているので、両方上がる事はない。口座は下がってコンビニは上がる。

○委員長：私は年寄りの方だな。よいか。

（異議なし）

○委員：市の職員とか市の関係者とか100%になっているのか。

○総務課係長：口座か。

○委員：ここに市の職員にも口座促進を図ると書いてあるので、足元が100%じゃなかったら、説得力がない。それはどうなのか。市職員もそうだし、市関連の事業もある。

○委員長：だけどこれ、市民税とかは天引きされているだろう。

○総務課係長：市県民税は天引き。

○総務課長：固定資産税とか。

○委員：銀行と連携することはできないか。

○総務課係長：それは連携すると良い。

○委員：効率がよくなる。そういった事が可能であれば是非。

○委員長：口座振替だと忘れる事がないのでよい。納付書だと忘れる時がある。

○総務課長：自動車税は車が変わったらまた0からだからなかなか

利用度が上がらない。

（異議なし）

○総務課係長：広告収入。広告媒体の受付、審査、利活用を行い、各課等にも積極的な活用を促すという事で、管財係が使っている広告入り封筒を使うなどして、経費の削減を図るという目標。広告媒体の受付、審査、利活用を行った、広告入り封筒等を利用し、経費の削減を図ったという事で、これはA。

○委員長：この辺少し実績を書いてもらいたい。金額とか、何でもどう払ったとか。中身が具体的に分かると良い。

○総務課係長：封筒と、さっき図書館の時に雑誌スポンサー制度というのがあったと思うが、あれもスポンサーが雑誌を提供してくれている。金額はわずかだと思うが、そういう事もやっている。

○委員長：何か主なものを、実施者、内容。

（異議なし）

○総務課係長：ふるさと納税の推進。インターネットクレジット収納システムを活用して、寄付者の利便性の向上を図るという目標で、数値目標は190件の700万だったが、平成27年度の実績が2,106件で1億を超えている。という事で、A。

○委員長：目標が低い。翌年は、路線を修正して3億円だ。初年度だからちょっと分からなかったのだろう。

○総務課係長：前の年が600万くらいだったので、それより少し大きい額という事で700万にしたと思う。来年は更にという事で3億。

○総務課長：申し込み方法を簡易的なものにした。

○総務課係長：市有財産。年度目標は、公共施設等、総合管理計画を策定するという目標に対し、各課ヒアリング等を実施して、検討会を開催し、公共施設等総合管理計画の原案を策定したという事で、計画の策定までには至っていないのでB。

○委員長：直営で計画の素案作成を行うため、経費の削減ができる。しかし計画どおり行ってないと。総合管理計画はできてないということだ。

○総務課長：台帳はできている。

○委員長：財務課長が、台帳が大変だと言っていた。

（異議なし）

○総務課係長：健全な財政運営、新地方公会計の整備。年度目標は固定資産台帳の整備、システム整備という目標に対し、固定資産台帳の整備は終了。公会計システムでは国の標準システムの公表を受け、仕訳の方法の決定や各ベンダーとの協議後、システム導入経費を予算化、財務システムとのすり合わせを検討するという事で、これは予定通り実施した。

（異議なし）

○総務課係長：公金預金の運用管理。基金運用して収入を得ているものだが、スケジュールに対する取り組み内容。財政調整基金、減債基金、合併振興基金、地域福祉基金で債権の運用を行った。債権運用可能な基金をまとめて、基金の一括運用を検討した、短期債から長期債への購入対象の見直しを行ったという事で、これは予定通り実施。

（異議なし）

○総務課係長：企業誘致サイトの拡充と積極的な企業誘致活動を行う。また市内企業への積極的な訪問を行って、情報の収集等に努めるという目標。数値目標は、1社誘致としており、取り組み内容は本社機能がある東京や大阪への訪問を行った結果、市内に工場があるB X ケンセイが第3工場建設に至り、企業立地促進補助金を支出したという事で、企業が1社誘致できたのでA。

○委員長：第3工場が出来たということか。前の年は働きかけをしたということ。よいか。

(異議なし)

○総務課係長：定住促進プランの推進という事で、人生丸ごと応援プランの実施と見直し、中でも空き家バンクの制度の定住補助の拡張を行うという目標に対し、年2回の見直しにより掲載事業等の追加等を行いプランの充実を図った。県の補助金を活用し、県外からの移住者に対する定住促進補助金を上乘せし、空き家改修補助金の利用者が3件、定住促進補助金利用者が73件。

○委員長：すごい。空き家バンク登録件数40件もクリアしたという事か。平成27年度に上がっているのが、空き家バンク登録件数が40件、こっちは改修等補助金が3件で、定住促進補助金が73件、これ比較するものが違う、まあ数が多くなっているのが良いが、ちょっと比較するものが違う、Aをつけているから多分クリアはしているのだろう。

○総務課係長：空き家バンクの登録物件を増やして、その分母を増やすと今度借りたらバンクの数が減って行くので、そこも難しい。

○委員長：数値目標に対する実績は、空き家改修工事は6、8、3ちょっと落ちている。58、79、73結構毎年いる。これ市外からの定住か。

○総務課係長：はい。上の3件は市外から来た人で空き家バンクを利用して改修をした場合で、下は家賃補助なので、前の年の79件と73件はかなり重なっている。何年か続くので、そういう方もいるかもしれない。

○委員長：もう少し目標数値との整合性が。

○総務課係長：空き家バンクの登録件数は調べておく。使用料の見直し。これは平成25年度に大規模な使用料の見直しを行ったが、その見直し後の使用料でずっと運営をしているので次期見直しに向けた施設管理費等を把握したという事で、予定どおり実施。

○委員長：杵築市は3年ごとに、それぞれサイクルで見直すのでは

なく、一発でポンとやるのか。県の場合は3つくらいに区分して、1年目2年目3年目でサイクルしているが。全部同じ時期ではないので。平成25年度でやったわけか。

○総務課係長：消費税の増税の時に抜本的な見直しをしている。

○委員長：それやってしまったら後は適正な事業執行という事で、見直し運用という事になると、次の見直しまではという事だろう。

○総務課係長：はい。

○委員長：それはそれで良いが、あまりなんか。

○総務課係長：毎年やるようなものでもない気はする。

○委員長：そのようだ。毎年やるようなものじゃないが。毎年やるものじゃなければ。一度やればそれからは適正な運用執行か、はい。

（異議なし）

○総務課係長：先ほどの空き家バンク登録件数は40件。

○委員長：ではそれもAでよいか。

（異議なし）

○総務課係長：保育料の見直し。子ども子育て新支援制度の移行に伴い、子ども子育て支援会議にて保育料の見直しを行って条例化を行った。

○委員長：これ何年か前にちょうど見直しを。条例を改正する前だったのでやらなかったのではないか。やったからA。

（異議なし）

○総務課係長：外郭団体の見直し。杵築市総合振興センター。数値目標が入っており、前年度比5%増、約100万円の増という事にしており、ふるさと便や委託販売の産業館事業、ふるさと納税による返礼品の発送における売上実績を増やしたという事で、売り上げが26に比べて27が2倍以上増えたという事でA。

（異議なし）

○総務課係長：同じく外郭団体の見直し、杵築市地域活性化センター。県単位での農地集積を進める中間管理機構が設置されたのを受け、農地集積円滑化事業から他事業へ重点事業のシフトを進め、将来のセンター運営の中心を目指すという目標。農地利用集積円滑化事業から中間管理事業への転換は23件、8.28ヘクトだった。農地保全として水稻基幹作業受託、土壌改良剤撒布、森林組合受託を行った。育苗センターでは生薬の栽培試験管理を受託、水稻苗5万7,000枚、花き苗、野菜苗を受注したという事で、予定どおり実施、評価はA。

○委員長：これがよく分からない、数値目標入ってなくて、数値目標に対する実績が入っているので、これ何を見ていいのか分からない。予定どおり実施はいいが、何が予定なのか分からない。だから主な数値だけでも3つくらい挙げてくれるといい。比較のしようがない。

○総務課長：平成28年度は目標数値を入れるように指導する。

○委員長：まあ多分順調にいつているのだろうが、当期一般正味財産増減額がマイナスになっている。前はプラスだった。という事はよいという気がしない。まあ全体として、ここは1つ1つ行っていないのでプラン表では51の中に紛れ込んでしまっている。

○総務課長：今、職員の給与体系等も見直しを検討しているので、そこらへんも中身の見直しを。

○委員長：そうだ。地域活性化センターは農業の中核だから。よいか。

（異議なし）

○総務課係長：各種団体事務の見直し。これは隔年実施につき今年は評価を実施していないという事で評価はC。

○委員長：未実施か。

○総務課係長：来年実施予定。

(異議なし)

○総務課係長：最後に観光協会との連携。年度目標が効率的な広告宣伝を行い観光客の増加と消費拡大に向け観光協会と連携して実施する。数値目標が、観光入込客数が100万人という目標に対し、100万5,393人と達成している。消費額は、14億4,800万円としており、予定どおり実施のA。

○委員長：これが県の観光動態調査に絡んで統計を取っているのだろう。だいぶ正確になってきたと思う。お客さんが増えている。客数は96万から100万に増えているから実感しているか。

○総務課長：結構着物を着た方を平日でも見る。韓国、台湾等。

○委員長：宿泊施設がないから通過型しかない。辛いところがある。よっ保留なのが1つだけ、景観保全の計画のところ。あれを調べてほしい。

○総務課係長：はい。

○委員長：流れがよく分からない。意味が。その辺を教えてほしい。

○委員：去年も言ったが、全体を見て2つ気になったところがある。1つは数値目標の結果を。ここはやっぱり大きな目標かと思うので、今年は達成したのかどうかを、目標を出すのだったら書くべきだと思う。もし達成してないのなら、逆に職員に各テーマはイエスノーで出ているが、トータルとして実際どうなのかということが目標になると思うので。あえて数値を出した以上は結果を書いた方がいいと思う。2つ目は、各個別のテーマを見たら確かにA、B分かるが、いつ終わるのが分からない。特に重要なテーマや、あるいはこれが出来上がった時点では、効果が大きいテーマについては終わりを決めて、ここまでに全部終わらせようという項目が、中にはあると思う。これは絶対急いだ方がいいとか、これが出来た暁には物凄い効果が大きい等。特に財政健全化にかかわるテーマ課題に

は終わりを決めて。ずるずる行っている、矢印が全部右になっているので、一体これはどこまで行くのかなと思う。28年度で終了だとかあればよいが。それと去年も言ったが4億はやっぱりちゃんというべきじゃないかと今でも思う。以上2つ。

○総務課係長：ありがとうございます。

○委員：前の事だから中々難しいかもしれないが。4億が今回は3億5千万だったとか4億2千万だったとか言えると思う。

○委員長：あとの日程はどうなるか。

○総務課係長：次回は先ほどの事業報告書の修正意見を貰ったものを確認してもらうことと、今度はアクションプランの報告書の素案を出して、またその意見をもらいたい。

○委員長：では両方だったら2時間でできるか。

○総務課係長：はい。アクションプランの素案を作って先に配布して、まとめて意見をもらってその場で完成。それでは、予定していた時間をオーバーしたが、慎重審議ありがとうございました。予定どおりアクションプランは終了。また次回ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い致します。ありがとうございました。